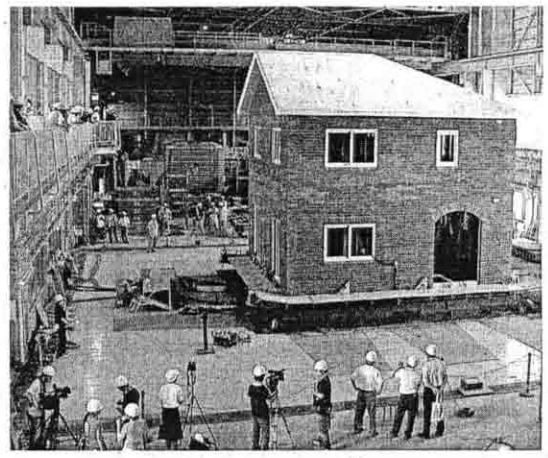
レンガ積み木造住宅は強かった

SAYYASグループで耐震実験

タテ・ヨコ鉄筋入りの レンガ積みパネルが効果

レンガ積み木造二階建て住宅を全国に普及させようと、SAYYASJAPAN㈱（富山市・澤井斉社長）の委託を受け㈶建材試験センター・木質構造建築物振動試験研究会（会長・坂本　功慶大教授）のワーキンググループ主査・五十田　博・信州大准教授が中心となり、さる二十四日、茨城県つくば市の独立法人土木研究所つくば中央研究所において「レンガ積み木造住宅の振動実験」（三次元耐震実験）を行なった。



レンガ積み住宅の実験棟、4回実験でもほぼこのままの状態だった

実験を行った木造住宅は、軸組構法で2階建て、延べ床面積32坪。構造柱は外周が4寸角の集成材、内部は3寸5分の集成材、2階床には24㎜合板、土台は4寸角ヒバ材。外壁は構造用合板（9㎜）の上にブリックピン（3センチの通気層をつくる）を使って8、500枚のレンガ（一枚のサイズ高さ75㎜×長さ230㎜×奥行70㎜）を一個一個、モルタルで積重ねての施工だ。100度以上の高温で焼いたレンガ（水を吸わない）の縦・横には穴が開けられ、その穴に直径8㎜のドブ漬けによるサビ止め鉄筋を通し耐震性を高めている。屋根形状は切妻に一部寄せ棟。屋根瓦の代わりに小屋裏に15トンの鉄板をのせての実験。

第一回目の実験は、神戸淡路大地震に相当する810ガル（震度7強）の強さを与えたが、層間変位（床と直上の床との水平方向の変位）はたった8㎜。第2回目の実験ではさらに150％（神戸淡路大地震の1・5倍）の振動を与えたが層間変位は14㎜であった。第3回目は新潟の小千谷市に起った地震を再現、第4回目は新潟の川口町に起った地震を再現して実験を行なったが層間変位は四回目にもかかわらず20㎜と小さく四回の実験が終了しても外部の損傷は殆んどなく（一部の外壁にヒビ割れが見られた程度）レンガ一枚ビクともせず、落下しなかった。

実験の主催であった五十田准教授は「木造には殆んど損傷がなく、相当強いことが分った。この強さは外壁のレンガ積みにある」と強調した。

FC展開強化

同実験の依頼者であるSAYYAS（セイヤス）グループの代表・澤井斉SAYYASJAPAN㈱社長は、すでに輸入建築資材（レンガ、金物等）の共同購入とレンガ積み専門技術者派遣で工務店向けにFC展開（近代ホームグループのせらら工房や仁幸夢店、エムエスホーム、ウィッシュホーム等11社加盟）を行っているが、この振動実験の結果をみて「レンガ積み住宅」の耐火性能と耐震性能を武器に、200年住宅システム認定を取得し、全国的にFC展開を強化していく考えを示した。

FCの加入条件は、加盟金300万円、会費毎月10万円。

また実験棟を設計施工したSAYYASグループの代表の一人、千葉の仁幸夢店㈱の長谷川仁志社長は「改めて自信をもちました」という。「あの建物の施工方法が標準施工で、鉄筋の間隔をタテヨコ450㎜ピッチで正しく入れると強いということを示した」という。

また、年間、50棟のレンガ住宅を受注している㈱せらら工房（横浜）の野原社長は「頭では分っていたが実際に見てあんなに強いものかと本当に驚いています。今後、自信もって受注活動していきたい」と感想を語った。

業界短信

パワービルダー対策を強化　東京都連

今年6月で15万6千人の組織を達成した全建総連東京都連合会は7月20日、東京・荒川区のホテルラングウッドにおいて第48回定期大会を開催、新年度の運動方針を承認した。

建設投資の縮小傾向が続いてダンピング競争が一層激しくなり、さらに資材の高騰によって、しわ寄せが下請けや職人に来る状況が続いている。住宅についても、改正建築基準法による着工減に加え、省エネ法改正や住宅瑕疵担保履行法の施行、4号特例の見直し等、大工や工務店等に負担がかかる施策が目白押しだ。

都連では今年度、後期高齢者医療保険制度にも負けない組織にするため、青年層の確保と後継者対策を重要課題として位置づけている。

また、パワービルダーと呼ばれる建売分譲企業の中には、一人親方を労働者と元請業者とに使い分けている例もあるところから、今後は元請責任を明確にすること、手間請け大工の労働者としての権利を確立するなど、パワービルダー対策を強化することにしている。

相川氏が委員長に　8000名の組合に

昨年の改正建築基準法の影響による新設住宅着工の大幅減少や瑕疵保証保険の義務化等により厳しい情勢の中で、建設長崎第63回定期大会がさる7月19、20日の2日間にわたって行われた。

建設長崎の組合員数も5年間で990名の組合員が減少し、更に今年度は後期高齢者医療制度の施行により国保から1000名（家族含む）減という組合として厳しい局面を迎えていることを踏まえ、青年部の拡大を軸として組織拡大、内部強化していくことを最大のテーマとしていくことにした。

また、瑕疵保証保険と2000年住宅認定制度に対応するため各種技術研修等を実施して業界の情勢変化に対応出来る組合に脱皮する運動方針を決定。その一環として従来県議職と委員長職を兼務していた金子三智郎氏が今年度は勇退して県議職に専念し委員長に相川副委員長の昇格と北村書記長が副委員長昇格、田上書記次長を書記長に昇格させた。

今年度の運動方針として決定した主なものは

①組合員8000名にすること

②住宅リフォーム助成制度の新設要請

③若年技能者の育成

④工事単価の引上げと労働条件の改善

⑤現場災害の撲滅と労働安全対策の強化等。

技能センター設立　大建労64回大会

大阪建設労働組合は、7月6日、エル・おおさか（大阪府立労働センター）で、第64回定期大会を開催、本年度の事業計画および予算案等を承認した。

本年度の主な事業としては、全支部での住宅デー実施、「建設労働一一〇番」やアスベスト相談の実施、公契約条例制定に向けての自治体との交渉、建設関連資格試験の講習会の開催、機関紙「建設労働」縮刷版の発行と普及・活用など。

受注確保にも繋がる活動としては「リフォーム助成制度」、「小規模事業者登録制度」、「耐震改修助成制度」の実現を各自治体に交渉、活用を推進する。特に、耐震改修助成制度については、大阪市は全国に先駆け、密集住宅市街地を対象とした戸建て住宅の耐震補強工事の補助制度が創設されているものの、他の自治体での取り組みが遅れているため、府下の各市町村に制度の利用を要請する。

また、NPO法人大阪建設安全技能センターを設立し、大阪府が創設した「リフォームマイスター制度」に登録参加する。

「優良ストック住宅推進協」設立

中古住宅の売買を促す狙いで、戸建住宅の大手ハウスメーカー9社（旭化成ホームズ、住友林業、積水化学工業、積水ハウス、大和ハウス工業、トヨタホーム、パナホーム、ミサワホーム、三井ホーム）は『優良ストック住宅推進協議会』（会長・和田勇氏）を設立した。

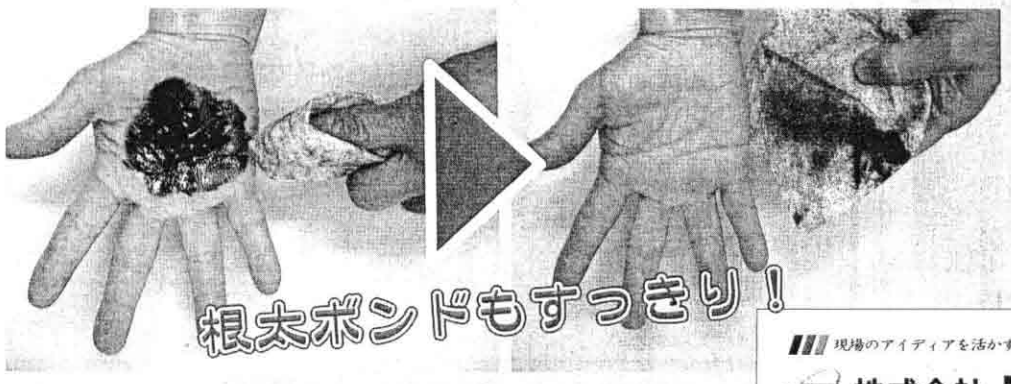
プレハブ住宅を含めた在来工法戸建住宅の中古物件の査定基準をつくり、購入者にもわかりやすく中古住宅の流通を活性化していく方針。独自の「優良ストック住宅査定マニュアル」を策定し、ブランド名は「スムストック」とする。

水も石鹸もいらないウェットタイプのハンドクリーナータオル
手肌、資材の汚れを簡単に拭き取り！

スクラブ Devcon

驚きの拭き取りパワー！
根太ボンドも一発拭き取り！

根太ボンド、コーキング、塗料、グリス、接着剤 etc...



※接着剤や塗料などは硬化前、乾燥前に限ります。
またベンジンのような揮発性が高く、危険性のある油には使用しないで下さい。

【スクラブマルチ】

持ち運びに便利な 10 枚入りのポケットティッシュタイプ。
工具箱に入れておいても邪魔になりません。
■10 枚入り（ポケットティッシュ）　■シートサイズ：28×22cm
愛読者価格　10枚×12パック ¥6,657（税込み／送料別）

【スクラブ 72】

密閉性の高いプラスチック缶入りタイプ。
72 枚入ってお買い得。大量に使う方にオススメです。
■72 枚入り（プラスチック缶）　■シートサイズ：33×27cm
愛読者価格　72枚×2缶 ¥6,006（税込み／送料別）

現場のアイディアを活かす　安全用品　現場用品　補修用品
EVER 株式会社 エバー商会
〒331-0056 埼玉県さいたま市西区三条町44-1
TEL 048-623-2003　FAX 048-623-2007
http://www.ever-shokai.co.jp
info@ever-shokai.co.jp